

成城大学 Activity Report

はじめに：副学長／FD・SD小委員会委員長ご挨拶

新任教員研修会

授業改善アンケート

ピアチューター制度に係るSD活動報告

FD・SDセミナー 1

「イマドキの大学院生のキャリアパス事情を知る

～研究指導とキャリア選択支援の両立を目指して～」

FD・SDセミナー 2

「オンラインツールで授業を活性化!

～双方向コミュニケーションツール“slido”の実践を中心に～」

各学部及びセンターのFD・SDへの取り組み

学長室のFD・SDの取り組み

2023年度活動計画



学生を懸命にさせる教育をめざして



はじめに

副学長
教育イノベーション委員会FD・SD小委員会委員長

都築 幸恵 教授

本学のFD・SD活動は、授業改善アンケート、新任教員研修会、FD・SDセミナーの3つを柱に進められております。コロナ禍のため遠隔授業に大きく依存しなければならなかった2020年度、2021年度の二年間を経て、2022年度は、多くの授業が面接（対面）で実施されました。

授業改善アンケートは、コロナ禍のなか、Web入力方式への転換により、大幅に回答率が低下していましたが、対面授業が原則となった2022年度では、多くの回答を得ることができました。各教員も学生からのフィードバックを得ることで、今後の授業改善に役立てることができています。また、コロナ禍での回答率低下のため、2年間選考を見送っていたベストティーチャー賞も、2022年度の授業改善アンケートの回答を元に次年度実施することができました。

2023年度新任教員研修会は、対面での研修ができたことは幸いでした。研修会は二つのパートから構成され、パート1は各部局からの説明事項の動画配信とし、先生方に各自でご覧いただきました。パート2は対面での実施で、学長から成城学園の歴史・大学の取り組み等についてご紹介いただいたのち、キャリアセンターの勝又あずさ先生をファシリテーターにお迎えして、ワークショップを行っていただきました。アクティブラーニングの手法に触れつつ、フレンドリーな雰囲気でのグループワークにより、教員相互の親睦を深めることができました。

FD・SDセミナーは、二回開催することができました。第一回は「イマドキの大学院生のキャリアパス事情を知る～研究指導とキャリア選択支援の両立を目指して～」をテーマとして、キャリアセンターとの共催で、12月に実施されました。本セミナーでは、大学院

におけるキャリア支援の現状に詳しい企業の方を招聘し、最近の大学院生のキャリアパスについて話題提供いただき、そのうえでキャリアセンターより、本学の大学院生の入学や修了後の進路選択状況を概観し、参加者間で情報交換や今後の支援の在り方などについて議論しました。本学の大学院生、また、大学院を志望する学部生の参加もあり、教職員にとっても学生にとっても新たな学びを得ることができました。

第二回は2023年3月に、石川県立大学の小椋賢治先生にお越しいただき、「オンラインツールで授業を活性化!～双方向コミュニケーションツール“slido”の実践を中心に～」とのタイトルでワークショップを行っていただきました。参加者が実際に操作してみるハンズオンセッションは大変実践的で、slidoのみならず、さまざまなオンラインツールをご紹介いただき、参加者からたいへん好評でした。また、このセミナーに参加した何名かの先生方が、2023年度より自らのご授業の中でslidoを導入し、学生との双方向型コミュニケーションの実現に役立てていただいております。

以上が2022年度のFD・SDに係る事業の簡単なお報告となります。成城大学の授業が、よりいっそう学生の学びの意欲と成果を高めるものとなりますよう、このような機会をご活用いただき、今後ともご協力を賜れますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

2023年10月

新任教員研修会

新任教員の先生方に一日でも早く本学をご理解いただき、円滑な教育活動を進めていただくための一助として、毎年、新任教員研修会を実施しています。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、新任の先生方全員に事前に説明動画と資料を配信することで対面での所要時間を短くし、非常勤講師の先生方へは、4月1日(金)～4月30日(土)を期間とし、オンデマンド型の動画・資料配信での実施となりました。

4月6日(水)に専任教員6名(経済学部1名、文芸学部3名、法学部1名、データサイエンス教育研究センター1名)の先生方を対象に実施された対面での研修は二部構成とし、第一部では杉本学長から学園の歴史や大学の取り組みについてが説明され、第二部では本学キャリアセンター勝又あずさ特別任用教授によるワークショップが行われました。

研修当日の様子(対面)



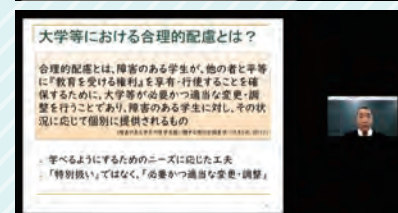
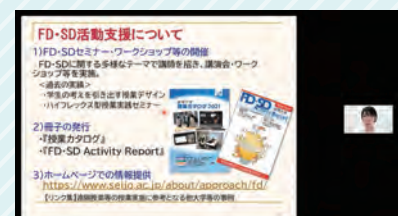
学長による本学の取り組み等に関する説明



ワークショップでは教職員間の交流をはかりながらアクティブラーニングの手法等を体験した

各部署担当者からの説明動画(オンデマンド)

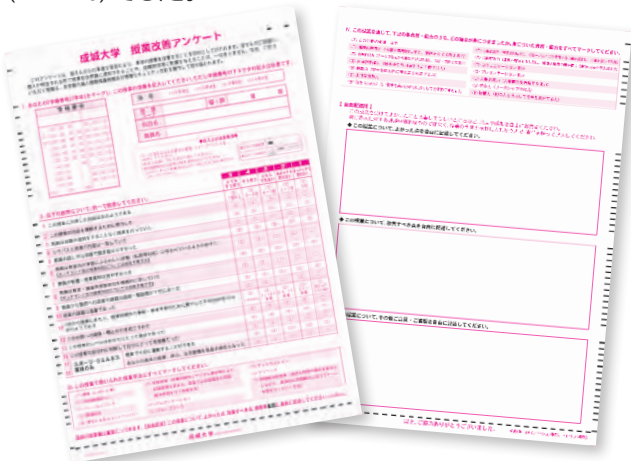
内 容	対象者	担 当
授業・成績・試験に関すること、学年暦、Campus Square for Web等について	専任教員・非常勤講師	教務部
教育改革支援、FD・SD活動支援、IR活動支援、なんでも相談窓口等について		教育イノベーションセンター
性の多様性に関する対応ガイドラインについて		厚生補導委員会
特別な支援を必要とする学生について		バリアフリー支援室
教育研究用ネットワーク・教材作成設備・e-learningツールとその利用方法について		メディアネットワークセンター
専任教員対象の補足説明	専任教員	総務課
教員業績システムについて		研究機構事務局
研究支援(科学研究所助成事業、特別研究助成費等)について		



担当者からの説明動画

2022年度は、大学、大学院の全科目を対象とした全学的な授業改善アンケートを前期、後期の2回実施いたしました。2020年度以降すべての対象授業についてWEBアンケートシステムを利用して実施してきましたが、2022年度より対面授業については以前のマークシート方式に戻し、原則、授業内で回答を依頼する形で実施、オンデマンドやリアルタイム配信などのメディア授業については、LiveCampus UIによって受講生に個人通知を行い、同じ設問形式の元、Webアンケートシステムを通じて回答を求める形で実施いたしました。

実施状況は、実施任意科目も含め、前期1,113科目中923科目(実施率82.9%)・後期1,607科目中1,248科目(77.7%)でした。

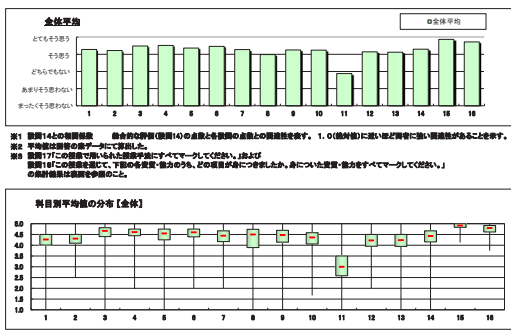
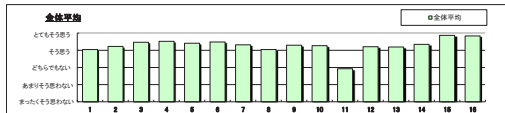


アンケートの集計結果は、LiveCampus Uで学内公開し、別途、科目別集計表を各科目担当者へ、大学全体集計表、科目開設部門別集計表、授業形態別集計表を学長、学部長、研究科長、共通教育研究センター長、データサイエンス教育研究センター長、国際センター長、キャリアセンター長へ報告いたしました。

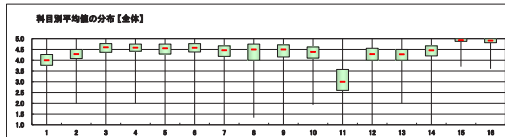
この集計結果を授業改善に役立てたいと考えておりますので、今後とも本アンケートにつきまして、ご協力いただきたくお願いいたします。

2022年度 前期 授業設備アンケート集計結果										成城大学	
対象		大宮本部		英語教育学部(A)・(B)		英語教育学部(C)・(D)		総合学部		総合学部	
				1,020		1,020		987		987	
				英語教育学部(A)		英語教育学部(C)		総合学部		総合学部	
				352		352		259		259	
質問	項目	平均値	標準偏差	平均値(A)・標準偏差(A)	平均値(B)・標準偏差(B)	平均値(C)・標準偏差(C)	平均値(D)・標準偏差(D)	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1	この授業に入学した理由は次のうちある ①授業内容 ②設備 ③大学 ④大学 ⑤大学 ⑥大学	4.28	0.53	2.98	0.98	3.97	0.78	3.83	0.58	3.68	0.78
2	この授業の内容を希望する理由を次のうちある ①授業内容 ②設備 ③大学 ④大学 ⑤大学 ⑥大学	4.28	0.40	3.78	0.80	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
3	教員は授業の進捗をよくする授業を行っている	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
4	シラバスと授業の内容が一致している	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
5	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
6	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
7	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
8	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
9	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
10	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
11	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
12	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
13	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
14	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
15	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
16	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
17	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
18	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
19	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
20	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
21	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
22	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
23	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
24	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
25	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
26	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
27	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
28	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
29	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
30	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
31	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
32	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
33	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
34	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
35	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
36	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
37	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
38	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
39	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
40	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
41	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
42	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
43	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
44	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
45	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
46	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
47	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
48	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
49	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
50	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
51	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
52	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
53	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
54	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
55	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
56	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
57	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
58	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
59	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
60	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
61	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
62	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
63	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
64	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
65	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
66	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
67	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
68	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
69	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
70	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
71	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
72	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
73	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
74	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
75	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
76	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
77	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
78	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
79	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
80	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
81	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
82	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
83	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
84	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
85	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
86	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
87	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
88	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
89	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
90	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
91	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
92	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
93	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
94	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
95	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
96	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
97	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
98	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
99	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78
100	教員は、授業に明確な目標を定めていますか。	4.40	0.30	3.88	0.90	3.18	0.60	3.83	0.58	3.68	0.78

スポート・エネルギー系競技の科目のみ調査									
1									

[illegible]

※1 図面14とこの図面を比較し、総合的な評価(図面14)の点と各図面の点との相違性を示す。1.0(絶対値)に近いほど両者に強い相違性があることを示す
※2 平均値は図面の最上段に算出された。
※3 図面17はこの図面を基として、下部の各図表・能力のうち、どの図表が身に付きやすかったか、身に付いた能力・能力をすべてマークして欲しい。の図表・能力は表裏を参照のこと。



アンケート集計結果はWeb上で公開しております。



ピアチューター制度に係るSD活動報告

<Supporters' Forum 2022 at Seijo University>

2022年11月19日(土)、他大学との交流の場として本学が主催するサポーターズフォーラムを開催した。6回目となる2022年度は、成城大学を会場とする対面形式と、オンライン参加のハイブリッド形式で開催し、25大学及び高校3校、総勢約200名の学生・生徒が参加する大きなイベントとなった。

第一部に早稲田大学グローバルエデュケーションセンターの高橋俊之先生を講師にお招きし、「全員発揮のリーダーシップ」というテーマでワークショップを行い、ご講演後にレクチャーを受けながら個人・グループでのワークを行った。第二部では「学習・キャリア」「国際交流」「ライブラリー」「高大連携」の4つの分科会において様々な形で、グループワークや発表、情報交換等を実施した。

毎年度新しい試みを行っているフォーラムだが、特に今回は初のハイブリット形式での開催を行う中、職員は学生の主体的な行動を促す支援を行い、フォーラム全体を通してSD活動の大きな取り組みとすることができた。

【サポーターズフォーラムのプログラム】

14:00～14:10	開会式・趣旨説明会
14:10～15:20	全体ワークショップ 「全員発揮のリーダーシップ」
15:35～16:50	分科会
16:55～17:00	閉会式



ワークショップ講師の高橋先生からアドバイスを受ける参加者

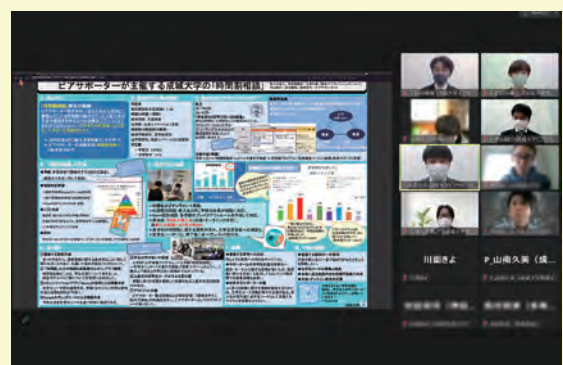
<大学教育改革フォーラムin東海2023>

2023年3月4日(土)、名城大学八事キャンパスにおいて、「大学教育改革フォーラムin東海2023」が開催され、ピアサポーター4年生3名、教育イノベーションセンター職員3名が、「学生同士の学び合いが促進!ピアサポーターが主催する成城大学の『時間割相談』」というタイトルでポスター発表を行った。

発表のテーマについては、学生・職員それぞれの立場、視点から意見を出し合った結果、ピアサポーターの重要な活動の一つである「時間割相談」を中心に、データからの振り返り、取り組みから見てきた課題と今後の展望について報告することとし、学生・職員で複数回の打ち合わせを重ねてポスターを作り上げた。

発表当日は、会場の名城大学八事キャンパスにてオンライン配信を行い発表後の質疑応答では学生に対しては「時間割相談」の実施で困難に感じた事、教職学協働で実施するピアサポーター活動で何を学び、何を身に付けられたか、といった質問、職員に対しては、ピアサポーターを支援している組織のしくみ等について、多くの質問が寄せられた。

4年生にとっては活動の集大成となり、職員にとっては振り返りと次年度への課題を明確にする機会として、学生との協働を通じた有意義なSD活動となった。



他大学の方との活発な意見交換

ポスターはこちらの
QRコードからご覧になれます



イマドキの大学院生の キャリアパス事情を知る

～研究指導とキャリア選択支援の両立を目指して～

講師 平田佐智子 氏(株式会社アカリク)

川面 きよ 職員(本学 教育イノベーションセンター)

小間 貴之 職員(本学 キャリアセンター)

日時 2022年12月9日(金) 18:00～19:30

場所 1号館2階 キャリアセンター「学生交流スペース」※オンライン(Zoom)併用

参加対象 成城学園教職員、大学院・学部生

大学院に進学をしてさらに学びを深めたいと考える学生にとって大きな懸念材料は、経済的な支援の確保と学位取得後の雇用だといわれています。しかし、現在の大学院生の進路選択事情がどのようなものかは、あまり知られていないのが現状ではないでしょうか。

本セミナーは上記のような問題意識から企画されました。

外部講師として、大学院生に特化したキャリア支援サービスを行っている株式会社アカリクの平田佐智子氏をお招きし、最近の大学院生のキャリアパスについて解説いただいたうえで、教育イノベーションセンターとキャリアセンタースタッフから本学の大学院生の現状報告という2つの話題提供ののちに、参加者を交えた質疑応答、情報交換が行われました。

平田氏による「人文系大学院進学者のキャリアパスの現在」と題した講演では、「データから見る(人文系)大学院生」として、近年の大学院進学者の変化や修了者の進路選択状況、人文系の大学院生を取り巻く社会的な現状、そして人文社会系の大学院生が就職している業種や職種の特徴について、統計データ等を用いて解説が行われました。次に大学院生が就職活動を行う際の就職活動スケジュールが

【プログラム】

18:00～19:00	話題提供 「人文系大学院進学者のキャリアパスの現在」 平田 佐智子 氏 (株式会社アカリク)
19:00～19:10	話題提供 「本学大学院生の現状とキャリアセンターによるキャリア支援」 本学教育イノベーションセンター 川面 きよ 本学キャリアセンター 小間 貴之
19:10～19:30	質疑応答・情報交換・ディスカッション

提示され、就職を希望する場合、学部生同様、インターンシップ経験が重要になること、そのためには課程に入学した直後には就職を意識した活動を始めの必要があることが示されました。

次に企業が考える「大学院生の強み」として自社の調査結果から、企業は大学院出身者に対して、外国語の運用能力・文章力などの汎用的スキルや協調性、柔軟性、積極性や向上心などを期待していること、特に文系修士出身者は営業職やコンサルタント、マーケティング分野が活躍フィールドであることを紹介いただきました。

企業は、大学院生を求める能力を持った人材として評価しているが、依然として「(特に人文系)大学院生は行き先がない」とされるのには大学院生側にも、「アカデミアのみを対象に研究上の専門という狭い範囲からキャリア選択をしようとする」という問題があり、情報収集の不十分さや、視野の狭さから企業に目が向かないなどが課題であると述べるとともに、モラトリアムで研究を続けている人ほど採用状況は厳しい事実もあるというお話もありました。

「行き先がある」大学院生になるためには、研究活動で要求され、培われる能力を認識し、しっかり鍛えておくことが必要であると述べられました。

研究で培われる能力(課題設定や問題解決、解析、考察、分析、文章力など)は社会でも活用できる能力であるので、研究活動で要求され、培われる能力を認識し、しっかり鍛えておくことによって企業の様々なニーズにも対応することが可能になるとのことでした。

最後に、よりよいキャリア選択のために、大学院生活において望まれることとして、コミュニケーション活動や専門外との接点を積極的に持つようにするとよいというアドバイスで話題提供は締めくくられました。

その後、本学教育イノベーションセンター川面きよ職員とキャリアセンター小間貴之職員から、本学の大学院生の就職の現状とキャリア支援について報告が行われました。

質疑応答・ディスカッション時には就職活動を経験した現役の大学院生参加者からの経験談なども披露され、参加者同士で今後の本学の大学院生のキャリア支援をどのように行けば良いかについての議論が行われました。本セミナーをきっかけに本学大学院のキャリア支援の今後のあり方を考える良い機会となりました。



アカリク 平田氏からの話題提供



キャリアセンターからの報告



現役大学院生からのコメント

参加者内訳

所 属		人 数
学内	大学教員	12 名
	職員	11 名
	大学院生	3 名
計		26 名

オンラインツールで授業を活性化!

～双方向コミュニケーションツール “slido”の実践を中心に～

講師 小椋 賢治 先生(石川県立大学 生物資源環境学部教授)

日時 2023年3月1日(水) 13:30～16:00

場所 9号館2階 データサイエンススクエア(921教室)

※話題提供のみZoomでのオンライン配信

参加対象 成城学園教職員、世田谷プラットフォーム加盟大学の教職員等

コロナ禍により、多くの大学がオンライン授業を経験しました。リアルタイムで行うオンライン授業では、授業に出席している学生とのコミュニケーションの観点からオンラインツールの活用にも注目が集まり、多くの実践事例が報告されていますが、これらのツールは対面授業においても受講生との双方向のやり取りを実現するツールとして活用可能です。また、自らの授業において学生との双方向のコミュニケーションを実現するために「簡単に学生とコミュニケーションがとれるオンラインツールを導入してみたい。」とお考えの先生方も多いと思います。

本セミナーでは、様々なオンラインツールを活用しながら授業実践を行われている石川県立大学の小椋賢治先生をお招きし、授業にお

【プログラム】

13:30～14:30	話題提供 小椋 賢治 先生 (石川県立大学 生物資源環境学部教授)
14:30～15:00	コーヒースタンド(情報交換)
15:00～16:00	ハンズオン・ワークショップ

けるコミュニケーションの重要性、インタラクティブな授業を実現するための授業内での工夫、コミュニケーションツールを用いた授業での実践事例について話題提供をいただきました。セミナー後半では、本学でも2023年度に試行的に導入することとなった「双方向コミュニケーションツール“slido”」に焦点を当て、利用方法の解説や実際に使ってみる体験型のワークショップも行われました。



都築副学長の開会挨拶



小椋先生による話題提供

当日のプログラムでは、第1部のレクチャーについてはハイフレックス型の形式で開催され、対面参加者13名とオンライン参加者22名の合計35名の教職員が参加しました。

第1部では、まず「本日の目標」として、「授業におけるコミュニケーションの本質を理解する」「授業で使えるオンラインツールについて理解する」「slidoを使いこなせる」の3点が提示されました。

小椋先生は、以前から積極的に授業改善の取り組みを行われていましたが、コロナ禍で感じた「オンライン授業に対する違和感」から、授業におけるコミュニケーションについて、「対面・オンラインに関係なく、授業では学生同士または学生と教員のコミュニケーションは必須」であると考えようになり、対面授業でもオンライン授業で活用していたコミュニケーションツールを用いて「対面・オンラインの長所を取り入れた新しい授業スタイルの構築」に取り組まれるようになったことをご説明されました。

次に授業におけるツールを用いたコミュニケーションの実践事例として、以前から授業で行ってきたアナログツールを用いた「ピアインストラクション」や「席くじ引き」、「シャトルカード（大福帳）」「ジグソー法ポスターツアー」といった取り組みをオンラインツールに移行した事例をその狙いと効果について触れながらご紹介いただき、今後の授業は、対面vsオンラインの二元論ではなく、両者の長所の融合、対面・オンラインを意識することなく、密接にコミュ

ニケーションをとりながら進める授業を目指すべきとまとめられました。

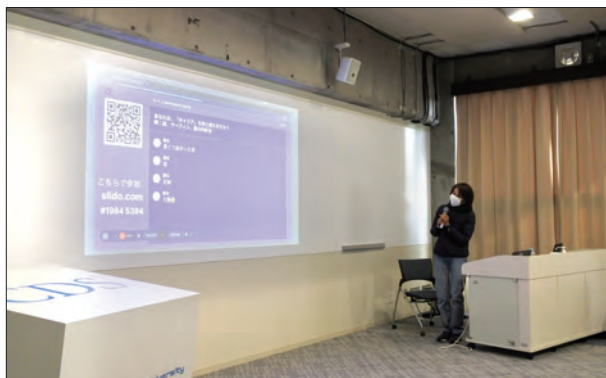
第1部の後半では小椋先生が実際に授業で活用されているオンラインツール「slido」の特徴や機能、設定方法をご紹介いただきました。「slido」は、参加者がリアルタイムで質問に回答したり、意見を投稿したりすることができるツールとなり、実際に先生が用意された質問に参加者がPCまたはスマートフォンを使用して、学生目線で回答してみるというインタラクティブな時間も設けられました。

次にハンズオン・ワークショップとして設定された第2部では、教員の視点からslidoを利用する体験を行いました。参加者は小椋先生の解説の元、実際に設問を作成し、設定してみる、また相互に回答しあうことで、設定のコツや設問の方法の工夫などslidoの活用方法を実践的に学びました。

本セミナーの資料などの情報は教育イノベーションセンターウェブサイトで公開されています。ご興味をお持ちいただいた先生がいらっしゃいましたら、ぜひ今後の授業改善の際にご活用ください。

参加者内訳

所 属		人 数
学 内	大学教員	25 名
	職員	6 名
学外参加者		4 名
計		35 名



slidoハンズオン・ワークショップ

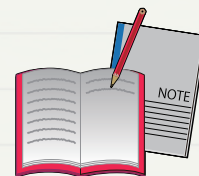


授業で使う場面を想定して質問を設定し、参加者が回答する場面も

社会イノベーション学部

社会イノベーション学部

青山 征彦 教授



社会イノベーション学部では、コロナ禍において、オンライン授業に積極的に取り組んできました。コロナ禍の収束に伴い、授業は以前のように対面が中心になっていますが、社会イノベーション学部では、コロナ禍以前の授業をそのまま復活させるのではなく、オンライン授業の経験を活かしながら教育をアップデートする機会と捉えて、FD・SDに関わるさまざまな試みを展開しています。

ここでは、そうした試みとして二つの取り組みをご紹介します。

一つめは、オンデマンド授業についてのセミナーの開催です。社会イノベーション学部では、ランチタイムに教員が自らの研究について話すBBLセミナー(Brown Bag Lunch=茶色い袋に入った昼食をとりながら、という意味)という企画を以前から開催していますが、昨年7月には積田准教授による「オンデマンド型授業の作成・活用・可能性」と題したセミナーを開催しました。積田准教授は、「戦略論」「組織論」ではすべての

授業回にオンデマンド方式を、「現代企業論」では全30回のうち10回にオンデマンド方式を採用入れるなど、オンデマンド方式を活用しています。セミナーでは、オンデマンド方式を用いるねらいや学生からの反応、オンデマンド教材を作るコツなどを共有していただきました。現在では、多くの授業が対面になっていますが、オンライン授業のよさも採り入れた授業設計は、他の教員にとってもたいへん参考になるものだったと思います。

二つめは、「オンライン授業の最前線」と題した教員を対象とした講習会です。東京通信大学の加藤泰久先生を講師にお迎えして、フルオンラインの通信制大学である東京通信大学での実践や、メタバース、AIの活用をテーマとして、今年3月に開催されました。東京通信大学でのオンライン授業の設計だけでなく、設計のベースとなるインストラクショナル・デザインの考え方についてもご説明いただくなど、内容の豊富な講習会になったと思います。また、この講習会に先立ち、学部教育に活用していただくために、iPadが全教員に貸与されました。各教員は、加藤先生とはパソコン等によりZoomでつながながら、iPad等を用いて実際にメタバースのサービスであるoViceを体験することができました。すでにさまざまな場面で活用が始まっているメタバースですが、大学でどのように活用するかを考えるよい機会になったと思います。また、教員にとってもっとも気になるテーマの一つである生成系AIについても解説していただき、教育にどのように採り入れていくかを考えるきっかけになったと思います。



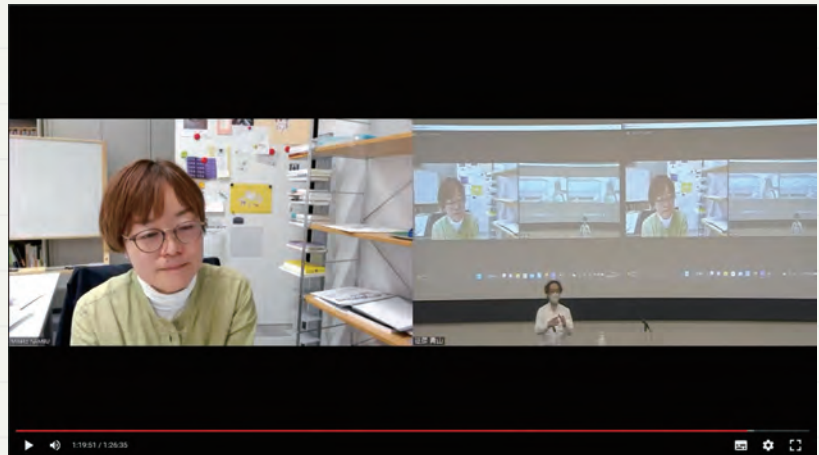
「オンライン授業の最前線」講習会の様子

これらの取り組みは、教員が新しい教育の手法を学ぶという点で、FDを目的とした活動と言えますが、日々の取り組みの中にも、教員の学びにつながるものがいくつかあります。ここでは、三つの取り組みについてご紹介します。

一つめは、本学と包括連携協定を締結したはこだて未来大学との連携授業の実施です。筆者の担当する「認知心理学Ⅱ」の授業で、はこだて未来大学の南部美砂子先生にオンラインでご登壇いただき、特別講義を実施しました。授業そのものは対面の教室で実施し、南部先生とはZoomでつないで、その様子がスクリーンに投影されているという状況でしたが、受講生に事前に取り組んでもらった課題を南部先生に講評していただいたり、筆者と会話をしながら授業を進めていただいたりすることにより、対面で出席している学生には臨場感、一体感を感じられる授業になったのではないかと思います。

二つめは、城南進学研究社と社会イノベーション学部のコラボレーションによるクリエイティブラーニング講座です。2021年度から毎年、実施している同講座は、高校生によるグループワークを大学生サポーターが支援する形で進めており、参加者にはたいへん好評です。全面的にオンラインで実施するために、ZoomによるミーティングとSlackによるコミュニケーションを組み合わせで運営しています。このようなオンラインでの教育実践は、本学部にとって貴重な経験となっています。

三つめは、入学準備プログラムです。推薦系の入学予定者を対象に、毎年1月から3月にかけて開催されるプログラムですが、以前は遠隔地からの参加者にはDVDに録画したものを郵送していました。現在は、プログラムの様子をZoomで



「認知心理学Ⅱ」でのオンライン特別講義

中継し、遠隔地からの参加者も、対面で参加している参加者と同様の内容をリアルタイムで体験できるようになりました。そのため、教員にとっては、対面かつオンラインというハイフレックス方式を運用する経験を蓄積できる場になっています。

このように、社会イノベーション学部では、コロナ禍の経験を活かして、これまでの教育をアップデートしていくための挑戦を続けています。学部長の遠藤教授は、入試情報サイト「成城ブリッジ」の「アフターコロナのイノベーションと経営戦略」という記事で、「遠隔授業と登校による対面授業という反対方向の動きを、それぞれの長所と短所を考えながら組み合わせ、新たな学びのスタイルを創り出していくことが大切」「こうした反対方向への動きを両立させるような「新たなベストミックス」を探し出すことがポイント」と述べられています。社会イノベーション学部は、私たちが長年培ってきた対面での授業のノウハウに、コロナ禍で培ったオンライン授業の経験やスキル、さらに近年のメタバースのような技術を加えていくことで、これからも学部の教育をアップデートしていきたいと考えています。

国際センター

「国際センターにおける
FD活動について」

国際センター

金田 陽治 課長



【< 図1>SIEP 科目（2022 年度の抜粋）】

Academic Skills I <English Reading>
Academic Skills II <English Listening>
Academic Skills III <English Writing>
Academic Skills IV <English Speaking/Discussion>
Academic Skills V <English Presentation>
European Studies <Introduction to the EU – History, Policy and Institution>
North American Studies <Cultural Diversity in the United States>
Asian Studies <Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia>
Japan Studies II <Introduction to Japanese Society>
Japan Studies III <Introduction to Anthropology of Japan>
Japan Studies IV A <Japan and International Relations>
Japan Studies IV B <Japan and International Economic Law>
Japan Studies V <Introduction to Japanese Literature>
Japan Studies VI <Introduction to Japanese Folklore>
Japan Studies VII <Introduction to Japanese Mass Media>
Japan Studies VIII <Introduction to Japanese Cinema>
Special Topics I <"Cold Wars" and Contemporary History>
Special Topics II <Gender Studies>
Special Topics III <Sport and Society>
Special Topics IV <Language, Culture and Communication>
Special Topics V <Power, Race and the English Language>
海外短期語学研修（英語・夏季）
海外短期語学研修（英語・春季）
海外短期語学研修（独語・春季）
海外短期語学研修（仏語・春季）
海外短期語学研修（中国語・夏季）
海外短期語学研修（英語・就業体験準備）
海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）
留学準備演習

本学国際センターは、2015年4月に設置され、国際教育、留学支援、学内における国際交流イベントの実施という三つの柱を組んで、活動を行っている。そのうち、国際教育については、2017年度より成城国際教育プログラム（Seijo International Education Program (SIEP)）を新たに開設し、SIEPを担当する専任教員を中心に、留学の準備に必要な授業を展開している。（図1）

SIEPによる国際教育は、本学に所属する学部生の留学準備を目的としているが、交換留学制度を利用して本学で受け入れている留学生に向けた日本語科目も国際センターで提供をしている。2023年4月現在、本学は協定ができた順に、北アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、東アジアにある18大学と学生交換協定を結んでおり、それらの大学からくる交換留学生向けに、三つのレベルを四つの技能別に合計12種類の日本語の授業を展開している。

また、国際センターでは、SIEPが始動した翌年2018年度から（コロナ禍の2020、2021年度を除いて）FD活動を実施し、教育の質の維持や向上に取り組んでいる。2018年度は、SIEPという新たなプログラムの1年を振り返ることを目的として、川崎恭治国際センター長（肩書は当時のもの、以下同じ）、相原章キャリアセンター長（担当:海外就業体験研修）、武田礼子SIEP担当特別任用准教授（担当:留学準備演習、Academic Skills IIIほか）、花井清人経済学部教授（担当:Japan Studies I）、デニス・リチェズ社会イノベーション学部教授（担当:Special Topics I）に加え、留学

や海外研修プログラムを事務方から支える国際センター職員、前田美子、安里佐知子の2名による事例報告がなされ、その後、出席者によるディスカッションが行われた。このFD研修には戸部学長、杉本副学長、林田教務部長、当時の国際センター委員のほか、SIEPに係る専任、非常勤の教職員らが参加し、SIEPというプログラムに直接的若しくは間接的に携わっているにも関わらず、普段はあまり会話をする機会のない教員同士が、活発に意見交換を行い、参加者からの評判も大変良好であった。

続く、2019年度は、前年度の評判を受け、事例報告を川崎国際センター長と武田特別任用准教授の2名に縮小し、後半のディスカッションの拡大と意見交換会を加え実施した。

その後、新型コロナウイルス感染症の影響により、2年間FD活動の実施を見送っていたが、去る2022年度に、国際センターのFD活動を再開することにした。内容は、これまでのSIEPに配置されていた授業に関連したものと離れ、受入交換留学生に向けて開設している日本語プログラムについて、「国際センターが提供する日本語プログラムの現状と課題について」と題した講演会をオンラインにて実施した。これは、2020年度にこれまで日本語の授業を担当する教員の紹介を依頼していた外部の日本語教育機関との関係が絶たれてしまったため、2021年度から本学の独自のルートで教員を採用し、新たなコーディネーターの下でスタートした本学の新しい日本語プログラムから1年が経過したことも理由として挙げられる。

講演は二つ行われ、一つは、「成城大学日本語プログラムの概要」と題し、本学の日本語プログラムの歴史や学生交換協定校の数、交換留学生数の推移などを、筆者が紹介した(図2)。もう一つは、「日本語プログラムの現状と課題」と題され、2021年度から本学の日本語授業と共に日本語プログラム全体のコーディネーターを担って下さっている、市江愛先生による講演があった。

市江先生による講演の内容は、①2022年度に見えてきた課題と取り組み、②残された課題、③より充実したプログラムに向けての3部構成で、1年を経た本学の新たな日本語プログラムの分析及び改善案の提示がなされた。

本学においては、交換留学生が15～25名程度とそれほど多くないため、日本語科目におけるレベル数は、初級、中級、上級の三つしか用意されていない。しかしながら、多様なバックグラウンド(派遣元大学の国や地域、交換留学生の学年や専攻など)を持つ学生を受け入れているためか、同じレベルのクラス内における日本語能力の差が大きくなっている。また、新体制が稼働し始めた初年度ということもあり、さまざま課題も見受けられた。そのような課題を踏まえ、留学生によりよい教育を提供できるよう、改善に向けた取り組みが紹介された。さらに、解決しきれなかった残された課題も取り上げられた。

その改善案の例として、本学の日本語プログラムの特徴として、多読の導入、三つのレベルを超えた合同授業による協働学習(や文化体験)、アウトプットに主眼を置いた「総合日本語」についての説明もなされ、本学の(受入)交換留学プログラムの強みとなる事例についても紹介された。

これを受けて、国際センターでは、日本語プログラムを改良し、より良い交換留学プログラムの実現に向けて検討を進めることとした。



< 図 2 >

FD・SDセミナー

第1回 大学広報に関する勉強会

講師 谷ノ内 識 氏 (追手門学院広報課長)

日時 2022年6月23日(木) 13時～14時30分

2022年3月24日に発表された「THE世界大学ランキング日本版2022」や大学通信「小規模だが評価できる大学ランキング2021(私立大学編)」における本学の順位の低迷を受け、それぞれのランキングに大きな影響力を持っている高校教諭への広報活動の重要性が学内で改めて意識されました。高校現場への広報活動の在り方を再考するとともに、本学の全般的な広報活動の在り方について検討を始めるべく、その第一歩として、大学広報を研究されている、追手門学院広報課長・谷ノ内 識氏を講師にお招きした勉強会を開催しました。

当日は、杉本 義行学長をはじめとした大学執行部の教員を中心に、大学の入学センターや成城学園法人事務局の広報部門職員が出席しました。

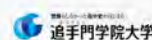
谷ノ内氏の講演は、「大学広報の視点～どこを目指し何を強化するのか～」と題し、まずは本学が目指すものを確認し、その目標について全学的・全学園で共有されることが大切であることが述べられました。ブランディングについても触れられ、他大学との差別化、識別化ができる構成要素を明確にしていくことが重要であることが再確認され、説得力のある講演でした。メディア露出については、実践した分だけ成果が出るものであり、社会から必要とされる大学になるためには、メディアリレーションを強化し、世の中のトレンドを意識した情報を発信し続ける必要があると伺い、大変勉強になる時間となりました。

於：成城大学

大学広報の視点 ～どこを目指し何を強化するのか～

谷ノ内 識

博士(政策科学) 日本広報学会 理事
大正大学客員教授 追手門学院 広報課 課長
Satoshi.Taninouchi.fb@otemon.ac.jp



自己紹介

本日の内容の振り返りに

『大学広報を知りたくなったら読む本』 2021年12月、大学教育出版、1,300円＋税
ISBN:978-4-86692-167-9

『月刊広報会議』デジタル版「大学広報ゼミナール」(一部無料)
<https://mag.sendenkaigi.com/kouhou/202202/university-seminar/023153.php> から全35回



FD・SDセミナー

第2回 大学広報に関する勉強会

講 師 入学センター

日 時 2022年11月17日(木) 15時～16時30分

6月23日に開催した第1回大学広報に関する勉強会に続き、2回目の勉強会では「広報・外訪・関係業務について」と題し、高校現場への広報活動の在り方を再考するため、本学入学センターが現状、どのような広報活動を展開しているか、また、高校の先生方や高校生のニーズ等について、現場を理解している入学センター職員から話を聞く機会を設けました。

入学センターでは、高校訪問、高校内説明会、進学相談会などの手段を活用し、高校生に直接アプローチしているが、そのような場に参加しても、成城大学のブースに足を運んでくれる生徒が他大学に比べても少ないことや、そもそも職員の人出が足りず、説明会への参加自体を見送らざるを得ない状況である等の課題が提示されました。

コロナ禍において、高校との情報共有が限られてしまっていたことも、認知度低下に影響していると考えられ、今後は高校訪問などの外訪活動を拡充していくこと、保護者を対象にした広報活動の強化、在学生による母校訪問企画等の対策を行っていく方針であることが報告されました。

この勉強会には約20名の教職員が参加し、教員からはPRの材料を提供することで協力していきたいなど、建設的な意見も上がり、有意義な会となりました。



入学センター長による説明



入学センター職員による説明

「授業カタログ 2022」を刊行しました！

授業カタログは、先生方の優れた取り組みや授業方法をご紹介します、大学全体の授業改善や効果的な履修指導に寄与することを目的に毎年度刊行しています。

2022年度版では、取材を通じて、コロナ禍での遠隔授業を経て得た知識、技法、スキルを対面授業において活用されている事例を多く拝見することができました。先生方の工夫と実際に受講した学生の声とを誌面上に視覚的に共有することで、大学全体の授業改善や効果的な履修指導へつながれば幸いに存じます。

2023年度版の作成の際も、先生方におかれましては、授業の取材・撮影のご協力をお願いいたします。



掲載内容を大学HPで公開しております。ぜひご覧ください。

2023年度活動計画

- 2023年 4月 ● 新任教員研修会
- 6月 ● THE 日本大学ランキング解説会
- 7月 ● 前期授業改善アンケートの実施
 - ベストティーチャー賞表彰式
- 9月 ● 2022年度授業改善アンケート集計結果報告、公開
 - 前期授業改善アンケート集計結果報告、公開
- 10月 ● 成城大学FD・SD Activity Report 2022年度版発行
- 12月 ● 後期授業改善アンケートの実施
- 2024年 3月 ● 2024年度事業計画、予算概算要求書確定
 - 授業カタログ発行
 - ※1 時期が未定の事業
 - ・ FD・SDにかかる研修会参加、他大視察
 - ・ FD・SD講演会・ワークショップ
 - ※2 事情により、上記の予定が変更になる場合があります。

成城大学教育イノベーション委員会FD・SD小委員会委員 (2023.7.5現在)

委員長	都 築 幸 恵	(教育イノベーション委員会委員長)	
委員	都 築 幸 恵	(教育イノベーションセンター長)	上 田 晋 一 (経済学研究科)
	木 下 誠	(教務部長)	鋤 本 豊 博 (法学研究科)
	金 春 姫	(経済学部)	加 藤 敦 宣 (社会イノベーション研究科)
	宮 崎 修 多	(文芸学部・文学研究科)	上 野 英 二 (全学共通教育運営協議会議長)
	池 田 雅 則	(法学部)	新 井 和 之 (事務局長)
	青 山 征 彦	(社会イノベーション学部)	

発行日 2023年10月

成城大学教育イノベーション委員会 FD・SD 小委員会委員 (2022.5.11 現在)

委員長 都築幸恵 (教育イノベーション委員会委員長)

委員 都築幸恵 (教育イノベーションセンター長) 大津 武 (教務部長) 金 春姫 (経済学部) 山下純照 (文芸学部・文学研究科) 池田雅則 (法学部) 青山征彦 (社会イノベーション学部)
森 周子 (経済学研究科) 村上裕章 (法学研究科) 加藤敦宣 (社会イノベーション研究科) 大友浩一 (事務局長)

編集スタッフ 成城大学教育イノベーションセンター 長尾繁樹 川面きよ 柳沢裕之 山南久美